

令和 5 年度 事業計画の概要

令和 5 年 3 月 23 日

東日本大震災・原子力災害伝承館

■ 基本的運営方針

- ・ 新型コロナ感染対策を継続
- ・ 複合災害の正確な情報発信と風化の防止
- ・ 魅力ある企画展や地域交流イベントを実施
- ・ 調査・研究事業の一層の推進と福島国際研究教育機構との連携
- ・ 外国語対応の充実

I 公益目的事業

1 資料の収集、保存、展示及び利用

(1) 資料の収集と保存

- ・ 震災関連資料の収集（中通りや会津等の市町村等と連携）と保存方法の検討
- ・ 震災体験手記の収集、公開の検討

(2) 資料の展示及び利用

- ・ 常設展示の充実
- ・ 資料閲覧室の充実
- ・ 海外からの来館者への対応の充実（多言語対応）
- ・ 企画展の開催 ▶原子力災害に焦点を当てた企画展（2回）
- ・ 移動展示の実施 ▶神戸市、東京都での実施を検討

(3) イベントの企画と実施

①地域交流等イベント〔9月頃〕

- ・ 地元自治体や関連施設と連携し、地域の魅力や復興状況を発信するイベントを実施（福島県と連携）

②3.11 メモリアルイベント〔3月〕

- ・ 収集資料や研究成果等を生かして複合災害の教訓を広域的に伝えるイベントを実施（福島県と連携）

③その他イベント

- ・ セタイイベントや企画展に関連したイベント等を実施

(4) 語り部講演

- ・ 語り部の技術向上と交流（研修会の開催、アンケート結果のフィードバック）

2 研修

- (1) 一般研修プログラム
 - ・関係団体と連携し継続実施
 - ・プログラム内容の検討（フィールドワークの行程等）
 - (2) 専門研修プログラム
 - ・下記の系統を軸に専門的な研修を実施
- ①オムニバス研修
常任研究員が中心となり包括的に学ぶことができるプログラムを構築
 - ②専門講座
上級研究員が各研究テーマに沿った講座を年間 12 回程度実施
 - ③企画募集型（ツアーパッケージ型）研修
各研究員が研修パッケージを企画し参加者を募集する形式を 4 回程度実施

3 調査・研究

- ・館長、上級研究員及び客員研究員からなる研究班による研究活動を継続
- ・常任研究員が館長及び上級研究員の指導の下、各自設定したテーマで研究を継続
- ・学術研究集会、研究活動報告会を開催
- ・福島国際研究教育機構（F-REI）との連携体制を構築

4 その他

- (1) 広報活動
 - ・積極的なプレスリリース、伝承館 HP の充実、SNS による情報発信
 - ・県内外の防災イベント等への積極的な出展による P R
- (2) 誘客活動
 - ・旅行会社及び学校等への営業
 - ・教育関係・旅行会社関係のモニターツアー、旅行会社と連携したツアー企画（福島県と連携）
 - ・サッカー J 2 いわき F C との連携によるサポーターの誘客

II 収益事業

1 オリジナルグッズの制作、販売

- ・防災グッズや館内ガイドブック等の製作と販売及び販路の開拓

2 販売受託事業

- ・震災記録誌や震災をテーマとした絵本等の販売継続